観光資源としての天ヶ瀬ダム
～４つのダム見学ツアーに参加しての聞き取り調査～

村橋　麻由美

ダム愛好家

ダムに興味のない人にダムを知ってもらうためには、まずダムに足を運んでもらうことが何よりも効果的であると各地のダムめぐりをして感じてきた。京都府宇治市は世界遺産の寺社が多数あり、観光客も年間を通じて非常に多い。その宇治市街から数kmの距離にある天ヶ瀬ダムは公共機関を使っていくことができる点でも非常に有利な立地にある。現在の天ヶ瀬ダムが再開発工事中である事を差し引いても観光資源としてさらにたくさんの人に足を運んでもらうためには課題があるのではないかと、いくつかの“宇治駅発天ヶ瀬ダムまで”のツアーに参加して参加者の意見を聴取してきたことから得た考察を述べる。

キーワード　インフラツーリズム，地域活性化，住民参加

1. はじめに

ダムが観光対象になる事は多くの実例があり知られているが、近年、ダムカードの配布(2007年～)に伴い、ダムを訪れる人の数はさらに増加している。しかし、河川管理施設、河川構造物としてのダムの働きについてはまだまだ正確に知られているとは言い難い現状があり、災害のたびに繰り返される誤った報道を見ていてもそれは明らかである。ダムの役割についての理解を深めてもらうことを目的とする見学ツアーは各地のダムで通年行われるようになってきている。土木構造物としてのダムの魅力に気づいてもらうことはダムについての理解の一歩であると考え、より多くの人に足を運んでもらえる機会が増えることを期待している。

ダムはその多くが山間部にあり見学しようとしても自家用車などを使わなくてはいけないことが多い中、近畿地方整備局管内では狭山池や布引五本松ダムなど公共交通機関で行くことができる国内ダム史に残る素晴らしいダムがいくつもある。

中でも、世界遺産の街であり、観光客が非常に多い京都府宇治市にある天ヶ瀬ダム(京都府宇治市宇治金井戸)は最寄駅、JR宇治駅、京阪電鉄宇治駅から徒歩で行くことができるダムであり、国内に52基しかないアーチダムにおいてこれほど交通の便が良いダムは無いという恵まれた条件にある。

天ヶ瀬ダムを見学する4つのツアーに参加し、年齢、性別、ダムについての知識も全く異なる参加者に対し、ダムの役割についての理解が深まっているかどうか、何が印象に残っているか、ツアーの問題点はないかを聞き取りした結果を報告する。

2. 調査対象と方法

調査対象ツアー

1)　J-heritage企画　「宇治川ヘリテージ」

2011年　8月開催

参加者　産業遺構、土木愛好家ら約20名

2)　天ヶ瀬ダム50周年記念　観光ツーリズム勉強会「天ヶ瀬ダム匠な集い」

2015年　2月開催
参加者　宇治観光ボランティアガイドの皆様　ダム愛好家ら41名

3)　森と湖に親しむ旬間　やましろ未来っこサイエンスラリー「行ってこ！　見てこよ！　天ヶ瀬ダムと地下トンネル」

2015年　7月開催
参加者　ツアー申込された一般の方(親子連れ多数含む)72名

4)　ダム工学会メンバー主催　「紅葉とダムツアー」

2015年　11月開催
参加者　一般の方18名

調査方法
参加者に対するインタビュー、ヒアリング調査

3. 結果1

参加者の声はそれぞれのツアーで全く異なりそれぞれのツアーに特徴的な意見が見られた。

産業遺構、歴史的建造物、土木全般に興味を持つ愛好家を対象とした「宇治川ヘリテージツアー」では宇治川の歴史から水力発電の開発、活躍する天ヶ瀬ダムまで、非常に幅広くかなり深く掘り下げた現場の皆様、講師からの説明があったことと、関西電力様のご協力により通常非公開の宇治発電所構内まで見学させてもらった為に参加者の満足度は非常に高く、これ以降も何度か開催されているツアーである。

「天ヶ瀬ダム匠な集い」では宇治観光の専門家である宇治観光ボランティアガイドクラブの皆様と数百のダムを見学してきたダム愛好家が参加した。天ヶ瀬ダム放流中のキャットウォークからの見学、再開発工事現場見学、宇治市観光センターではダムに特化した専門的な話題が提供され、ディスカッションも盛んに行われた。

平成27年度の森と湖に親しむ旬間に開催された「行ってこ！　見てこよ！　天ヶ瀬ダムと地下トンネル」は近年のインフラツーリズムの影響もあったためか開催発表直後に定員がいっぱいになった。参加した方々はダムカードのことも知らないという方が大半であった。工事が進

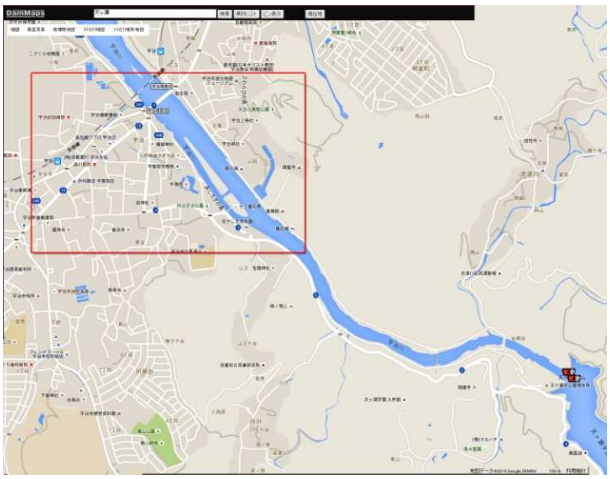
むトンネル式洪水吐水路の現場見学に続き、天ヶ瀬発電所の見学とコンジットゲート放流をしている最中に左岸減勢工横まで入らせていただくことができ、感動したという声が多く聞かれた。

「紅葉とダムツアー」
ダム工学会のメンバーの方が声をかけて集められたウォーキングツアーで参加者の方は趣味も職業もばらばらでダムに少し興味あるけど詳しくはないという方々であった。非常に知的探求心の強い方が多く、ダム工学会の方からの、ダムの働きや宇治川の特性の説明に、興味深い面白いという声が多数見られた。

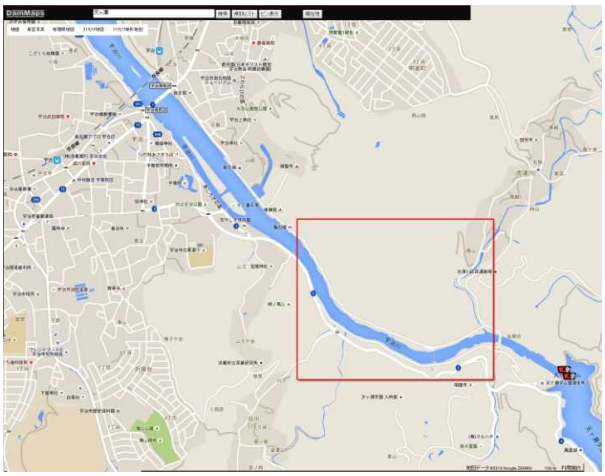
4. 結果2

各ツアーでは主催者側から現場で様々な説明が行われ、ただ見るだけではなく学びが得られる内容が準備されていた。

天ヶ瀬ダムだけでなく、直下の世界遺産群、宇治の歴史、水力発電の歴史など非常にたくさんのコンテンツがあり、ツアーによって取り上げ方のバランスは若干変わるものの概ねこれらのコンテンツは共通して紹介されていた。

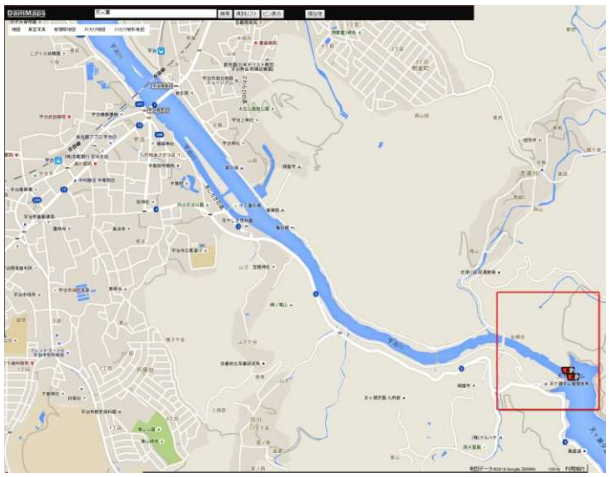


宇治駅から塔の島、亀石、槇尾山水位観測局舎までの区間は、宇治の歴史と文化、多数の文化財と世界遺産、産業遺産と話題が尽きない。宇治川についても宇治橋の木除け杭、段差工と塔の川の水位、塔の島改修工事、過去の出水、琵琶湖から宇治発電所を通して大水量の水が来ていること、塔の島を監視するCCTVカメラ、地元の人が宇治川の水位の目安としている亀石など時間が足りなくなるほどの情報が提供できる区間である。



亀石を過ぎて白虹橋までの区間はシーズンによって参加者の意見は大きく異なった。

夏にここを歩くのはかなり苦行であるが、春は新緑が大変美しく、秋には紅葉が見事で大変気持ち良く歩けるのでこの区間が一番好きという意見もあった。人気があるシーズンは春と秋であり夏には木陰があるとはいえ、むしろ体力のない方には熱中症対策が必要である。
左岸の山と川以外に特にみるべきものがないのでガイドも情報提供に苦労する区間である。



ダムサイトはダムの諸元、仕事、ドームアーチの優美さ、年回転率で国内一二を争う鳳凰湖、天ヶ瀬発電所、すべての方向から愛でられる堤体とこれも話題が尽きない。今回調査したツアーのうち二つでは左岸減勢工横の広場まで入らせてもらったが直下から見上げるドームアーチは他の形式のダムとは全く違う迫力で参加者を圧倒し、感動したという声が多数見られた。

また直下右岸にある志津川発電所遺構は産業遺産に興味のない人でも見惚れる造形美であり関西電力様の管理地であるがこの遺構を観光の目玉として整備してもらえたらという声が聞かれた。

5. 考察1

宇治観光ボランティアガイドの方々から上がった声で最も多かったのは「もっと放流してほしい」「放流していると思ってお客さんを案内したが放流していなかった」というものでこれについては洪水吐から放流するということの意味を理解してもらう必要があると感じた。

関西電力天ヶ瀬発電所からの放流のお知らせをダムのコンジットゲートからの放流と思って観光客を案内したが放流していなかったことが何度かあったためであると考えられる。天ヶ瀬ダムは他のダムよりも放流回数が多いことも他のダムがどのように運用されているか、洪水吐ゲートが開くことの方が稀であるということも知られていなかった。

次にあげられたのは駐車場の問題で、そもそもダムサイトは再開発工事以前に駐車場がほとんどなかった。「ダムを観光の目玉にしようとしても駐車場がない。駐車場がなく狭い歩道しかないということは観光客を拒否していることになる」という言葉が非常に重く感じられた。再開発工事が終わった後に駐車場が確保されたら天ヶ瀬ダムの人気はさらに高まるものと考えられる。これは各地の数百のダムを回っているダム愛好家からも一番多く上がっている声である。

産業遺構・土木愛好家からの声は天ヶ瀬ダムも魅力的だが隣接している志津川発電所遺構の観光地化ができたら素晴らしいのにという意見が多数見られた。発電所建屋も煉瓦造りで美しいが水圧鉄管のサドルや上部水槽遺構は幻想的であり映画のシーンに入り込んだような錯覚を覚える造形美を残している。しかし志津川発電所遺構は関西電力の所有であり、発電所建屋も老朽化が進んいでいることから観光拠点化は難しく上部水槽までの道も未舗装の急勾配であり誰もが気軽に訪れることができる状態ではないため具体的な活用の話は出ていない状況である。

ダム愛好家からは過酷なダム見学を多数経験していることから逆に現状についての意見は少なく、現在のダムサイトで駐車できるスペースが少なくて困るという点以外は十分満足できている、再開発工事現場など貴重な見学ができることが嬉しいという意見が多かった。しかし、アーチダムを見上げられる左岸減勢工横広場が関西電力天ヶ瀬発電所構内を通らなくては行けないため通年解放されていない、森と湖に親しむ旬間のイベントでしか入ることができないことがとても悔しいという声があった。

現在、解放されていない右岸の志津川発電所遺構の敷地から減勢工右岸広場まで散策路を整備してもらえたら放流はしていないときでもドームアーチの迫力と美しさをもっと多くの人に体感してもらえるのではないかという声が上がった。

一般の参加者から見学後に聞いた声では「トンネル」「重機・大型車両」「ダム」「放流」と普段なかなか見られないものを間近で見たというものだけが印象に残っており、見学時に目に見えない根本的な利水、洪水調節といったダムの役割については一度にたくさんの情報が入っても理解できない、すごいなと思うが詳しくはわからないという正直な声があった。

水道・発電・洪水調節については現場で解りやすい説明をして頂いたが、一度に理解をしてもらうためには情報量が多すぎたのかもしれないとも感じた。

しかし巨大建造物を作る現場、晴天の下で放流をしているダムを間近で見る体験はダムについて非常に好印象を持ってもらえる機会になったと思われる。今回の「行ってこ！　見てこよ！　天ヶ瀬ダムと地下トンネル」ツアーでは放流中に左岸減勢工横広場に入らせてもらうという貴重な体験をされており、晴天下のダムの放流が美と力を圧倒的な迫力で伝えるものであることを再確認できた。

6.　考察2

ダムについての理解を深めてもらうにはダムに興味を持ってもらう事から始めなくてはならない。

イベントやツアーなどで限られた時間で低水管理や防災操作についてを見聞きしてもダムの役割を全部一度の機会で理解することは困難である。

興味を持って何度も足を運んでもらうことがダムの役割についての理解につながり、きっかけとしてダムカードや放流情報は有効である。

ダムカードは勿論、ダムに足を運んでもらうきっかけとしては非常に効果的で、知識を深めてもらうためにも有効なツールの一つであるが、カード収集家はダムカードにしか注目せず、本来のダムの役割については興味がないという人々も多い。ダムの働きについて理解をしてもらうためにはパンフレットだけではなく実際にダムの圧倒的存在感を体感してもらうことがより印象に残ることは間違いない。

しかし、ダム管理者は理解を深めてもらうために観光ツアーなどに協力はしても役目はあくまで利水と治水でありそれらの業務に支障が出るような案は本末転倒である。

また、天ヶ瀬ダム周辺観光については再開発工事が終了する平成30年までは観光よりも工事の安全が確保されることが大切である。

ダムについて理解を深めてもらう方法を観光客自身が現場で得られるようにするためには地域の協力が絶対的に必要であり、ダム管理所だけの頑張りでは成し得ない。

いかに予算とマンパワーをかけず、安全を確保しつつダムという素晴らしいインフラを地域の観光の目玉にするかを考えなくてはならないが幸いなことに天ヶ瀬ダムの場合は宇治に素晴らしいサポーターが存在する。

地元、宇治で活躍されている宇治市観光ボランティアガイドの皆様のような観光の達人にまずダムの役割と仕事、その魅力を知ってもらうことが重要である。ダムへのガイドをしてくださる方々がダムについての知識を深めてくれればより多くの人にダムの魅力を伝える大きな力になってもらえることは間違いない。

宇治に来た人が天ケ瀬ダムを見に行こうという気持ちになった時、右岸減勢工横広場まで安全に通行できる道の整備があれば、たとえ放流をしていなくても圧倒的な迫力でダム自身が美しさと力強さで魅了してくれるはずである。

7. まとめ

① 天ケ瀬ダムは非常に観光資源として高いポテンシャルを有するダムである。

② ダムの役割を流域の人や、観光に訪れた人に知ってもらうためにはダムカードも有効だが、一度に理解してもらうことは困難と考えたほうが良い。

③ 何度か足を運んでもらうためにも天端レベルの駐車場が再開発工事終了後にでも造られれば有効であると考えられる。

④ 直下右岸の散策路、公園化などの整備があればより多くの宇治市に訪れる観光客をダムサイトまで誘導できるのではないか。

⑤ 観光の達人・宇治観光ボランティアガイドクラブの皆様にダムの正しい知識を知ってもらうことが有効である。

参考文献

1) 地域活性化の歩み～「日吉ダム」と「スプリングスひよし」～ 日吉ふるさと株式会社総務部　榎本泰文：日本河川協会「河川」2015 September No.830

2)京都府　府観光振興課観光振興担当
平成 26 年観光入込客数及び観光消費額調査結果概要
http://www.pref.kyoto.jp/tokei/monthly/tokeikyoto/tk2015/tktokushu201511.pdf